

- 二 裁ち方の際に脇の明け方、頸のくり方、胸幅、脊幅、等の要點を教へて如何なる形にも應用の出来るやうにしておく事
- 三 みしんを使用しなくても手縫にて充分縫ふ事が出来ることを教ふ

九月 月と週

二 一

第一 一つ身袷衣の観察及び裁ち方 (三時間)

要旨 袷衣の標本を観察せしめ裁ち方を實習せしめてその単衣と異なるところを明らかにしめ且つその裁縫の技能になれしむ

準備 教具 一つ身袷衣出来上り標本、通し裏及び裾廻しつき各一枚、各部名稱圖、裁ち方輪

二 廓圖

兒童材料 表布三米突六十センチ 裏布三米突七十五センチ位 附紐

要項 一 各部名稱

二 單衣との縫ひ方の相違

三 表裏各布片の枚數

四 表布の裁ち方積り方

五 裏布の裁ち方と積り方

六 實物裁ち方實習

尋常第六學年第二學期 六一

第二學期 教授豫定時數 二十六時間

教 授 事 項 (時 間)

第一 一つ身袷衣の観察及び裁ち方 (三時間)

要旨 袷衣の標本を観察せしめ裁ち方を實習せしめてその單衣と異なるところを明らかにしめ且つその裁縫の技能になれしむ

準備 教具 一つ身袷衣出来上り標本、通し裏及び裾廻しつき各一枚、各部名稱圖、裁ち方輪

二 廓圖

兒童材料 表布三米突六十センチ 裏布三米突七十五センチ位 附紐

要項 一 各部名稱

二 單衣との縫ひ方の相違

三 表裏各布片の枚數

四 表布の裁ち方積り方

五 裏布の裁ち方と積り方

六 實物裁ち方實習

尋常第六學年第二學期

注意 一 實習教材は通し裏を本體とするが材料の有無により適宜のものを用ひさせる

第二 一つ身袷衣袖縫 (四時間)

要旨 袷衣袖の縫方を理解せしめ之を實習せしめてその技になれしむ

準備 教具 元祿袖、筒袖、澗袖の袷衣出来上り標本、袖口かけ方標本、袖口四つ留の糸のかけ方を示せる部分標本

兒童材料 一つ身袷衣袖實物材料、袖縫方に用ふる練習用布

要項 一 袖口布のかけ方

二 袖の標附方

三 袖の縫ひ方

四 袖仕上げの躰

五 實物實習

注意 一 袖口布のかけ方及び袖口四つ留の仕方は全兒童練習用布にて部分練習をなしたる後實物に移らせる

二 實物の袖は袖口布の有無、その形種々なるをもつて澗袖筒袖は説明のみにて直ちに實物をもつて練習せしむ

第三 一つ身袷衣標附 (二時間)

要旨 袷衣の標附方特に裏布の標附方を理解せしめ之を實習させてその技になれしむ

準備 教具 標附方輪廓圖

兒童材料 一つ身袷衣實物材料

要項 一 仕立上寸法の筆記

二 衿肩かくり及布調べ

三 通し裏の標附方

表身頃

裏身頃

衿

衿

四 裾廻し附裏の標附方

五 標附方實習 布の重ね置き方に注意、寸法を正確に計らしむ

六 縫標 袖附、衿附、衿附、裾等表裏とも縫標

注意 一 裾廻し附の材料のものは説明了りて直ちに實習させる。此の間通し裏のものは見學

標終りて縫合せをせず、待針とめて直ちに全體の標附をさせ、又は他生に手傳はせて縫合せをさせることもある。而し之は材料の數によつて定むべきものである

第四 一つ身衿衣表身頃及び裏身頃の縫ひ方 (四時間)

準備 教具 一つ身衿衣表裏身頃一揃

兒童材料 一つ身衿衣の表裏

要項 一 表身頃の縫ひ方、脇衿附

二 裏身頃の縫ひ方

(イ) 脇縫、寸法のつめ方及び裾の針目の注意

(ロ) 衿附、裾の針目の注意

注意 一 表身頃は單衣物と全然同様なるをもつて各自隨意に實習せしむ

二 裏身頃は表身頃の縫ひ方との差違を理解せしめて各自實習せしむ

第五 袂の縫ひ方部分縫 (三時間)

要旨 袂の型紙の割り出し方及びその縫方を教授し練習させて、衿衣綿入の特有の縫ひ方を理解せしめんとす

準備 教具 衿衣及綿入の袂の部分標本、袂型割出し方を示したる圖、縫ひ方説明用布

兒童材料 厚紙、練習用布

要項 一 袂型の割り出し方圖引及び型紙の切り方

二 袂のしるしつけ方、縫ひ標の仕方

三 縫ひ方 半センチ及び一センチの袂 待針の仕方 皺の寄せ方着せの注意、襞の仕方注意

注意 一 袂縫の實習は各自製作したる袂型にて行はせる

二 袂型、縫標、待針等局所局所にて必ず點檢して要所を充分に理解せしめる

第六 一つ身衿衣の裾合せ中綴 (三時間)

要旨 一つ身衿衣の裾合せ、中綴を實習せしめ衿衣の仕立方を會得せしめんとす

準備 教具 裏表の身頃を裾合せまで縫ひたる説明材料、袂縫の部分標本

兒童材料 一つ身衿衣材料

要項 一 裾合せの待針

二 針目及びきせにつきての注意

三 袂あげ

四 靴とち及び中綴

注意 一 裾合せは注意すべき點を示して各自直ちに實習せしむ

二 綴ぢ方はなるべく個人指導の方がよろしい

第七 一つ身衿衣衿つけ (二時間)

要旨 衿衣の衿附の方法を理解せしめんとす

準備 教具 説明用布

児童 一つ身衿衣身頃と衿布

要項 一 衿下衿

二 衿附の下とぢ

三 衿附の待針及び縫ひ方

四 衿先、三つ衿心入、衿衿

注意 一 三枚づけの衿附は單衣のつけ方と大差なき故布が重つて厚いところの縫ひ方の注意を與へて直ちに實習せしむるとよい

第八 一つ身衿衣袖附及び仕上 (四時間)

要旨 極く初歩の衿衣の袖附の方法を會得せしむ

準備 教具 説明用布、紐附飾縫の標本、火熨斗、蒲團等の用具

児童材料 一つ身衿衣附紐布

要項 一 身頃下とぢ

二 表袖附

三 四つ留

四 裏袖のくけつけ方及び振、八つ口のくけ方

五 裾とぢ

六 掛衿

七 附紐の縫ひ方及びつけ方

八 仕上げ

注意 一 袖附の三枚つけは表は殆んど單衣と同様であるから特に裏のくけ附方及び四つ留に注意する

二 揚をする必要のあるものは要點を注意した後各自に自習せしむ

三 最後には筆記帳をも整理させて成績物と一緒にださせて検閲する

第九 綿布の繕ひ方 (二時間)

要旨 綿布の繕ひ方の内、穴縫かけ接ぎ等を練習せしめて衣服等の損所の繕ひ方を會得せしむ

準備 教具 穴つぎ、鉤裂つぎ等の標本
兒童材料 半幅三十五センチの縞木綿

要項 一 穴縫の用途

二 鉤穴つぎの方法

三 焦穴つぎの方法

四 かげはぎの用途及び方法

注意 一 名稱及び用途を筆記させた後に實習せしむ

二 布目、縞目をよく合せる事に注意させねばならぬ

三 成績物は點檢後保存させておく

第三學期

教授豫定時數 十八時間

月と週

教 授 事 項 (時間)

一月

一

第一 一つ身袖無羽織の觀察及び裁ち方 (二時間)

要旨 一つ身袖無羽織を觀察せしめて長着と異るところを發見せしめその裁ち方を研究せしむ

準備 教具 一つ身袖無羽織出來上り標本 裁ち方輪廓圖、説明用布

兒童材料 メリンス又は木綿並巾二米突十五センチ位、裏地並幅一米突十五センチ

要項 一 外見上長着との相違點及び各部の名稱

二 布片の枚數

三 仕立上寸法 裁ち切り寸法 裁ち方圖筆記

四 積り方計算 裏表用布の割出し方

五 實物にて裁ち方實習

注意 一 身丈の取り方の長着と異なる點に十分注意せしめることが必要である

二 裁ち方に實物のないものは他生のを見學させる

二

第二 一つ身袖無羽織の標附 (一時間)

要旨 一つ身袖無羽織の標附を實習せしめて羽織類の標附方を會得させる

準備 教具 標附方輪廓圖、説明用布

兒童材料 一つ身袖無羽織實物

要項 一 標附方圖筆記

二 表布と裏布との重ね方、標つけ方

三 襦布のはぎ方、標つけ方

四 縫ひ標

注意 一 長着と羽織との相違につきてよく注意せしめる

第三 一つ身袖無羽織縫ひ方 (三時間)

要旨 之によつて綿入の縫ひ方を會得せしめ、特に襦布の入れ方を教へて羽織の仕立方を理解せしむ

準備 兒童材料 袖無羽織實物

要項 一 胸裏接ぎ方及び布の縫ひ合せ方

二 左右襦布の入れ方 糸留襦布につきての注意

三 二

二月

四

第四 一つ身袖無羽織綿入 (二時間)

三 縫目の上全體襪をかける

注意 一 袷衣と綿入との相違点を注意させる

要旨 綿の取扱に習熟させる

準備 教具 綿入方を、後身頃前身頃兩方より書きたる掛圖

兒童材料 袖無羽織實物、青梅綿二枚、葉真綿三枚

要項 一 布のたゝみ方及び置き方

二 真綿の伸し方引き方及び綿の入れ方

三 かへし方、持ち方及びかへし方

四 周囲のどち方、袷附のところ、脇あき及び裾のどち方

五 脇あけのくけ方、襦布の上の四つ留、極く細く漸けて綿を針にかけぬ事

注意 一 全兒童を二回に分ちて綿入實習をさせて一枚を二人宛て取扱はさせる

二 最初は一同に示範し次に各自に實習せしむ

三 綿入物のくけ方については特に實習上の注意を與ふ

五 六

第五 一つの身袖無羽織衿附 (四時間)

要旨 羽織類の衿附方を充分理解せしめんとす

準備 児童材料 袖無羽織實物、紐布

要項 一 紐附、紐に綿を入れて締める、紐の位置は普通の羽織の乳附と同様なることを注意す

二 衿の折り方及び待針、衿自然のたるませ方

三 衿のつけ方 左半身の待針を點検して後一針貫にて附けさせ終りて右半身も同様にして附けさせる

四 衿先の縫ひ方及び折り方

五 衿心の入れ方 木綿綿を用ふ

六 くつけ方 針目の注意及び綿に針をかけざること

七 衿とちとち糸の効用及び着せとの關係

注意 一 長着及び襦袢等と異なる點に注意せしむ

二 衿先の折り方は全く長着と反對なるを以て教授用練習用布にて各自に練習せしめた後實物に移らせる

七

第六 一つの身袖無羽織中綴ち及び仕上 (一時間)

要旨 綿入衣服の中綴の仕方を會得せしめんとす

準備 教具 火熨斗及蒲團等の用具

児童材料 袖無羽織實物出來上り

要項 一 左右後襟の堅綴ち

(イ) 糸の引き方

(ロ) 針の出し方

(ハ) 堅綴の効用

二 仕上げ 火熨斗をかけ清潔にして正しく疊ませる

三 袖無羽織縫方順序及び方法筆記

第七 小裁綿入古着整理 (三時間)

要旨 綿入の古着の整理法を教授し實習せしめて綿入縫方の研究をなさしむると同時に既習の

補綴法をも練習せしめんとす

準備 教具 補綴法の標本、説明材料

尋常第六學年第三學期

三月 七 八

兒童材料 一つ身三つ身四つ身中何れかの古着一枚

要項 一 綿入物縫直し方法の説明

二 汚れの調べを終りて解き方實習

(イ) 周囲のとき方

(ロ) 綿の出し方

(ハ) 全體の解き離し方

三 布地の損所を検せしめる

四 補綴法の實習

五 古綿 解き糸布片の始末

注意 一 初め縫ひ方順序を問答して解き方はその反對なることを研究せしむ

二 綿の出し方は實物をもつて示範して説明する

三 補綴の箇所が少ない者には小布で練習させる

四 洗濯及び糊張は家庭に依頼する

第八 衣服についての心得 (二時間)

要旨 衣服についての家事的の知識を學習せしめんとす

準備 教具 衣服地の標本一揃、各衣服一枚宛

兒童材料 ありあはせの材料一枚宛

要項 一 衣服新調についての心得

(イ) 服地の選擇、地質、色合、柄

(ロ) 任立方の注意

二 衣服取扱上の注意

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ) 各種衣服の疊み方 洋服 和服

出入につきての注意

着用後の手入

日常服の手入 洋服 和服

縫直しにつきて

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ) 衣服の納器及び藏め方につきて 洋服 和服

三 衣服疊み方實習

注意 一 衣服について心得べき事は其の大要を筆記させておく

二 各種衣服のたゝみ方は各その材料について實習せしむ

高等科第一學年

第一學期

教授豫定時數 九十六時間

月と週

教 授 事 項 (時間)

四月

一

第一 基礎練習 (二時間)

要旨 裁縫の學習態度を定めさせ、尋常科で既に修めた基礎の技術について復習を行ひよものは取り悪いものは之を機會に全然改めさせる

準備 教具 運針、糸の留め方繼ぎ方、縮け方、折り返し等の基礎技術の標本

兒童 尋常科より使用して來た適當な用具及び材料一揃

要項 一 運針

(イ) 運針の姿勢

(ロ) 直線、斜線、曲線の運針法

二 糸の留め方及び繼ぎ方

三 縮け方

四 折り返し

注意 一 高等科の兒童は殆んど全部他校より集まるものであるから最初に於て技術及びその用語をまとめるために特にこの時間を設けたのである

第二 本裁女物單衣の觀察及び裁ち方 (三時間)

要旨 本裁女物單衣の標本を觀察せしめ、小裁、中裁との差異を發見させ、その裁ち方積り方を工夫研究せしめ實地に布を裁たせてその技になれさせる

準備 教具 本裁單衣女物實物標本 出來上り標準寸法表

兒童材料 本裁女物單衣材料(約十一米突)實物

要項 一 本裁と小中裁との差異

二 仕立上寸法

三 各布片の枚數並に各布片の丈幅等の研究

四 裁ち方圖の構成及び積り方

五 各自の寸法により積り方計算

六 折り方、丈しらべ説明

七 裁ち方實習

高等第一學年第一學期

八 折り方に際して過不足を生じたる時の處置

第三 本裁女物單衣袖の縫ひ方 (四時間)

要項 本教授に於ては特に袂の丸味の製作法を學ばしめる

準備 教具 丸底の袖と角底の袖との標本

兒童材料 厚紙、袖布實物

要項 一 標附

(イ) 出來上りの寸法と標附の寸法

(ロ) 袖の丸味の型の取り方及び標附方

二 縫ひ方

(イ) 袋縫につきて

(ロ) 丸味の縫ひ方及びまとめ方

(ハ) 袖口のくけ方

注意 一 丸味の型紙は一齊に取らせ之を用ひて丸味の部分縫をしてその後には實習せしむると

よ 二 袖下の袋縫及び袖口の三つ折衿は各自に研究實習させる

三 糸留及び各所の寸法は正しくさせる

第四 本裁女物單衣の身頃衿肩當居敷當の標附方 (四時間)

要旨 本裁單衣一般の標附方を會得させその技術になれしむ

準備 教具 標附輪廓圖(身頃前後、衿、衿)

兒童材料 女物單衣實物

要項 一 脊縫、衿肩をかゝり細かく二度縫

二 標附

(イ) 布の置き方

(ロ) 標附の順序

(ハ) 出來上り寸法と標との關係

(ニ) 縫標

(ホ) 肩當居敷當

三 標附實習

注意 一 縫直し物なる時の注意は特に説明しなければならぬ

二 標附實習は場所が狭い時は半數宛させて他生は之を手傳ふやうにすれば一人が二度の經驗

- を重ねることが出来て時間を費しただけそれだけ効果がある
- 三 筧の消えるおそれあるものは全部縫標をさせる
- 四 肩當及び居敷當は別に標附をさせなくてもよい

第五 本裁女物單衣肩當居敷當及び脇縫衽附裾ぐけ (六時間)

要旨 肩當及び居敷當の効用を教へその大さ位置等を實地について研究せしむ

準備 教具 肩當居敷當のあて方圖、女物單衣實物標本

兒童材料 女物單衣實物、肩當居敷當布

要項 一 肩當の當て方

二 居敷當のあて方 高さの注意

二 脇縫、折返の加減

四 衽下裾

五 衽附、劍先のとめ方

六 裾衽、棲の三角の折り方 衽け方及び縫目の上の衽け方注意

第六 本縫女物單衣衽附 (四時間)

要旨 女物廣衽の仕立方を理解せしむ

準備 教具 廣衽附の標本

兒童材料 女物單衣材料及び裏衽三つ衽心

要項 一 衽附の待針の打ち方

二 衽附の縫ひ方

三 三つ衽心入れ及び衽先の仕立

四 衽ぐけ

五 掛衽

注意 一 廣衽の衽先は部分練習をさせてもよい

二 掛衽は餘程手際を要するから、角のくけ方等は個人別に指導をなし劍先衽肩廻し等はよく注意して實習せしむる

第七 本裁女物單衣袖附及仕上げ (五時間)

要旨 扇附の方法を理解させること、本裁衣類の疊み方を會得せしめるのが本學習の目的である

準備 教具 女物單衣實物標本、火熨斗、蒲團等の用具

兒童材料 女物單衣實物材料

要項 一 扇附の待針の打ち方

- 二 縫ひ方
- 三 折り返し及び振身八口の新け方
- 四 仕上げ 火熨斗あて
- 五 本疊の方法
- 六 筆記の整理

注意 一 成績物については自己の批評と所要時間とを記入して出さしめる

第八 本裁男物單衣の觀察及び裁ち方積り方 (三時間)

要旨 既習本裁女物單衣との外形上の差異並に之に用ふる地質縞柄色合等の相異を觀察せしめその裁ち方を研究せしむる

- 準備 教具 本裁女物單衣各實物標本普通出來上寸法表裁ち方輪廓圖、
 兒童材料 本裁男物實物材料(十米七十センチ)
- 要項 一 女物單衣と男物單衣との差異
 二 仕立上寸法
 三 各布片の枚數並に各布片の丈幅等の研究
 四 裁ち方圖の構成及び積り方

- 五 各自の寸法により積り方計算
- 六 裁ち方實習

注意 一 仕立上寸法は女物と餘程異るところがあるからそこは詳しく説明してやらねばならぬ
 二 裁ち方積り方は全然女物と同様であるから復習的取扱をするのは勿論時としては考査的に
 行つても可い

三 應用問題はなるべく多く課し用布について時價の計算させるのも面白い

第九 本裁男物單衣袖の縫ひ方 (四時間)

要旨 男物の袖の縫ひ方特に人形の作り方を充分理解せしむ
 準備 教具 人形の部分標本 本裁男物單衣實物標本
 兒童材料 男物單衣袖布

- 要項 一 標 附
- (イ) 人形と振との關係
 人形の寸法と袖附との關係
 - (ロ) 標附實習

二 縫ひ方

五

- (イ) 人形の縫ひ方
- (ロ) 丸味の整へ方
- (ハ) 人形の返し方

注意 一 女物単衣に於て一度實習したところが多いからなるべく正確に且迅速に仕上げしむ

第一〇 本裁男物単衣身頃衿肩當居敷當標附 (三時間)

要旨 男物の身丈の計り方及び揚の標附方を充分理解せしむるのが主な目的である

準備 教具 本裁男物単衣實物標本、揚の部分標本、標附方輪廓圖

兒童材料 本裁男物単衣實物、肩當、居敷當、裏衿等

要項 一 衿肩かゝり及脊縫

二 内揚の説明

三 標附説明

(イ) 布の置き方

(ロ) 標附の順序方法特に内揚の方法と順序

(ハ) 縫標

(ニ) 肩當及び居敷當

六 五

四 標附實習

注意 一 實習の際に机上狹隘を感じる時は一人宛の材料を扱はしめ他は之が手傳をさせる

二 内揚の標附の順序方法はよく記憶せしめる

第一一 本裁男物単衣揚の仕方肩當居敷當のつけ方 (四時間)

要旨 男物及び女物内揚の方法を理解せしめ之を實習せしめその技になれしめ肩當居敷當の位

置及びその當て方を實習せしむ

準備 教具 内揚の部分標本、男物単衣實物標本

兒童材料 男物實物材料及び肩當、居敷當

要項 一 後揚の縫ひ方、前揚の縫ひ方

二 肩當のつけ方 女物同様

三 居敷當の位置及びつけ方、丈短き時、長きとき

第一二 本裁男物単衣衿附及び衿附 (六時間)

要旨 大體は既習女物の時と同様であるが衿先の縮け方が異ふからよく理解せしめねばならぬ

準備 教具 衿先部分標本

兒童材料 男物単衣實物材料及び裏衿

高等第一學年第一學期

- 要項 一 衿下げ及び衿附
- 二 衿附 女物廣衿の時と同じ
- 三 衿先の留め方縫ひ方
- 四 三つ衿心入れ
- 五 衿先のくけ方
- 六 かけ衿

注意 一 衿先は部分縫をして標本として保存させておいてもよい

第七 第一三 本裁男物單衣脇縫裾紵袖附仕上 (六時間)

- 要旨 脇縫特に折り返しの方法と袖附の四つ留めの仕方とを理解せしめ實習させる
- 準備 教具 内揚部分標本、袖附四つ留標本、本裁男物實物標本
- 兒童材料 男物單衣實物
- 要項 一 脇の縫ひ方及び折返し
- 二 裾 紵
- 三 袖附、待針の打ち方及び四つ留、扇附縫ひ方
- 四 仕上げ

第七 第一四 四つ身單衣の觀察及び裁ち方 (二時間)

- 要旨 既習の裁ち方を復習し更に應用の裁ち方を研究せしむる
- 準備 教具 四つ身單衣實物標本 廣幅物四つ身裁方圖
- 兒童材料 並幅六米突半
- 要項 一 小本裁との比較
- 二 裁ち方圖の構成と積り方
- 三 仕立上寸法

第六 第一五 四つ身單衣の袖縫 (四時間)

- 要旨 主として元祿袖の縫ひ方を理解せしめその方法に慣れしむ
- 準備 教具 元祿袖部分標本 型取圖
- 兒童材料 運針練習用布、袖實物
- 要項 一 元祿袖の丸味の型取方
- 二 袖部分縫

- (イ) 標附方
- (ロ) 縫ひ方

三 實物袖縫ひ方

第八 第一六 四つ身單衣標附方 (二時間)

要旨 特に衿の空縫及び衿附の曲げ方等につき研究せしむ

準備 教具 四つ身單衣實物標本 標附輪廓圖

兒童材料 四つ身實物材料

要項 一 脊縫の袋縫につきて

二 布の置き方及び後身頃の標附

三 前身頃の標附

(イ) 衿の空縫の標附

(ロ) 衿附の標附

四 裏衿接ぎ方、衿の標附

注意 一大抵の兒童は既に學習してゐるから全部自習させてもよい

二 衿の標附は時間の都合で裏衿をつけず表衿のみに標をつけさせてもよい

第九 第一七 四つ身單衣縫方 (十一時間)

要旨 四つ身單衣特に衿の空縫 衿のつけ方等を理解させ小裁中裁物の仕立につきて特に注意す

べき所を會得せしむ

準備 教具 四つ身單衣前身頃部分縫標本

兒童材料 四つ身單衣實物材料

要項 一 肩當、主として縦と横とを反對に裁つ

二 衿の空縫 身頃の方より縫はしむ

三 衿下ぐけ及衿附

四 脇縫及び裾ぐけ

五 袖 附

六 仕上げ 小裁の疊み方

注意 一 大抵の兒童が既に習つてゐる場合には全然復習的に取扱ひ時間と努力との經濟を計る

二 而し要所々々の留め方縫ひ方等は細かに注意させる

三 早く出來たるものには揚をさせてよい

一〇 第一八 古着の整理法 (四時間)

要旨 衣服縫直しの必要と、その縫直し方法とを教授し兼ねて補綴の練習をなさしめ縫ひ方の研究をなさしむる

準備 児童材料 一つ身袷衣の古着一枚

要項 一 衣服縫ひ直しの必要

二 汚點の検査

三 袷衣解き方説明及び解き方實習

(イ) 縫ひ方順序の反對に解く

(ロ) 解く間に布地の損所に注意すること

(ハ) 布地のたゝみ方、ぬき糸の始末

四 解きたるものによりて裁ち方の研究

五 補綴法の練習

六 洗張の仕方 この實習は家事科の練習として家庭に於て行はしめる

第一九 女腹合せ帯 (十五時間)

要旨 女腹合せ帯の仕立方を會得せしめ實地に練習させてその技能に慣れしむ

準備 教具 女腹合せ帯實物標本、各種女帯地、角の標附方説明圖、飾糸附方圖

児童材料 女腹合せ帯實物材料

要項 一 帯の地質、種類、丈、幅等につきて

一〇
七月
一二

二 腹合せ帯の仕立上寸法

三 帯の縫ひ方順序につきて

四 布の整理實習

(イ) 地質の取扱につきて

(ロ) 耳の伸ばし方

五 假綴、標附方及び縫ひ方實習

(イ) 出來上寸法と標附

(ロ) 縫ひ方 針の大きさと中央のあけ方、平鋏と折鋏、角の綴ち方

六 心拵と心附、真綿の引き方

(イ) 心布の裁ち方

(ロ) 帯側と心布との釣合

(ハ) 心の綴ち方と綿の引き方、綴糸を強く引かぬ事

角の綴ち方、綿がつれぬやうにすること

(ニ) かへし方と引き合せ方

七 仕上げ

- (イ) 周囲のしつけの仕方
- (ロ) かへし口の縫け方
- (ハ) 火熨斗及び壓しの仕方
- (ニ) 飾糸のかけ方

第二〇 穴かゝり練習 (五時間)

要旨 穴かゝりの方法を理解せしめ練習させてその技に長ぜしめ之を實地に應用せしむ

準備 教具 穴かゝり三種の標本、穴糸

児童材料 キヤラコ長さ十五センチ、幅十五センチ、カタン糸二十番(黒)

要項 一 穴かゝりの必要

二 甲種穴かゝりの方法

三 乙種穴かゝりの方法

四 丙種穴かゝりの方法

五 ねじり穴と鳩目つき穴とのかゝり方

注意 一 糸の引き方によつてその出来栄えが大變異ふから注意しなければならぬ

二 ボタンの大きさと穴かゝりとの大きさも教へておく必要がある

第二學期

教授豫定時數 百四時間

月と週

教 授 事 項 (時 間)

九 月

第一 一つ身袷衣の觀察及び裁ち方 (二時間)

要旨 一つ身袷衣を課し裏と表との關係、胸裏と裾廻しとの關係を理解せしめ實地に裁たしめてその知識を確む

準備 教具 一つ身袷衣實物標本 裁方輪廓圖

児童材料 一つ身袷衣實物材料 表三米突半

胸裏、二米突九十三センチ、裾廻し八十センチ

要項 一 各部の名稱

二 外形上より見たる單衣との差異

三 表裏各布片の大きさ及び枚數

四 表裏裁ち方圖の構成と裁ち切り寸法記入

五 積り方計算 裏は通し裏並に裾通しつきの場合につきて

六 各自持參のものにて裁ち方實習

一 第二 袷衣袖の部分縫と一つ身袷衣袖の縫ひ方 (五時間)

要旨 袷衣袖の縫ひ方を研究せしめ最初部分練習用布をもつて練習せしめ次に實物を縫はしめてその技を正確に記憶せしむ

準備 教具 袷衣袖各種(筒袖、元祿、袂)、袖口かけ方部分標本、標附方輪廓圖

兒童材料 一つ身袷衣袖實物、練習用布

要項 一 袖口のかけ方説明及び實習

二 袖の標附方と實習

三 袖の縫ひ方説明及び實習

(イ) 袖口合せ

(ロ) 袖口の四つ留及び袖下縫

(ハ) 八つ口の縫ひ方

四 實物の袖縫ひ方實習

注意 一 筒袖は四つ留不要にして割合に容易であるから部分縫をする必要はない

二 袖口をけぬき合せとする時にもやはり袖口を合せる時に裏の方は兩端を少し縫ひ入れるやうに教へる

一 第三 一つ身袷衣身頃衿の標附 (二時間)

要旨 特に裏の標附方を理解せしめんとす

準備 教具 一つ身袷衣實物標本、裾廻し附方標本、標附方標本

兒童材料 一つ身袷衣實物材料

要項 一 脊縫及び布の置き方問答

二 通裏の脊縫

三 胴接の標附方及び縫ひ方

四 表裏身頃の標附方、幅の狭き方より

五 衿の標附

六 衿の標附

注意 一 標附は適宜に區切つて實習せしめつゝ説明を進行させて行く

二 特に裏表の幅及び丈に注意せしめねばならぬ

二 第四 一つ身袷衣表裏身頃の縫ひ方 (四時間)

準備 教具 裏身頃肩揚の標本

高等第一學年第二學期

兒童材料 一つ身裕衣實物材料

要項 一 表身頃縫ひ方 脇縫 衿附

二 胴接又は肩揚、脇縫、衿附

第五 袷衣袷の部分縫 實物袷衣の裾合せ及び中綴ぢ (五時間)

要旨 袷の部分縫をなさしめ袷衣綿入等の獨特の裾の作り方を知らしめ之を實物にて練習せしめてその技に長ぜしめ、表布と裏布との合せ方を研究せしめ中綴ぢの方法を會得せしむ

準備 教具 袷衣及び綿入袷の部分標本 中綴の標本

兒童材料 厚紙、練習用布、一つ身裕衣實物材料

要項 一 袷型の取り方圖引及び形紙切り方

二 袷のしるしのつけ方

三 縫ひ方、待針の仕方 しわの寄せ方 きせの注意 襷のしかた

四 實物裾合せ

(イ) 丈くらべ

(ロ) 待針の打ち方

(ハ) 縫ひ方

(ニ) 袷上げ

五 出襷の襷のかけ方

六 脇の中綴ぢ

注意 一 袷型は各個人に製作せしむ

二 袷あげは個人指導による

第六 身八口縫 袖附 衿綴 衿下縫 (五時間)

要旨 之等の縫ひ方を實習せしめて袷衣獨特の仕立方を理解せしめんとす

準備 袖附の四つ留標本

兒童材料 一つ身裕衣實物材料

要項 一 身八口の四つ留及縫ひ方

二 袖附

(イ) 待針の打ち方

(ロ) 四つ留の仕方

(ハ) 表袖及び裏袖のつけ方

三 衿綴方

四 衿下の縫ひ方

注意 一 すべて個人指導がよい

第七 一つ身衿衣衿附裾綴及び仕上 (三時間)

要旨 衿附裾綴の方法を教授し衿衣の仕立方を會得せしめ之を實地に練習せしめてその技に慣れしむ

準備 教具 裾綴の方法圖

兒童材料 一つ身衿衣實物材料

要項 一 衿附下綴ぢ

二 衿附待針

三 縫ひ方

四 衿 新

(イ) 衿心入

(ロ) 衿 先

五 掛 衿

六 裾綴ぢ

第八 本裁女物衿衣の裁ち方積り方 (二時間)

要旨 本裁女物単衣棒衿裁の裁ち方を復習し裏布の裁ち方積り方を教授し衿衣の裁方に對する觀念の整理をなし本教材に於ては特に鈎衿裁の裁ち方を教授せんとす

準備 教具 鈎衿裁にしたる實物材料

兒童材料 本裁女物衿衣實物材料

要項 一 表布の裁ち方

(イ) 棒衿の裁ち方積り方

(ロ) 鈎衿の裁ち方積り方 鈎衿裁による時の注意

二 裏布の裁ち方

(イ) 通し裏の裁ち方積り方

(ロ) 裾廻しつきの裁ち方積り方

三 各自裁ち方実習

注意 一 鈎衿の裁ち方は仲々理解し難いものであるから棒衿の時とよく比較対照して利害得失を明にしてやらねばならぬ

二 紙等をもつて裁ち方を實習せしむる時は表裏を明瞭にしたものでなくてはならぬ

第九 本裁女物袷袖縫ひ方 (四時間)

要旨 袷袖の縫ひ方を實習せしめてその技に慣れしむ

準備 教具 袖口布のかけ方及び袖口縫ひ方標本

兒童材料 女物袷袖實物

要項 一 表袖の標附方

二 裏袖の標附方

(イ) 袖口布の標

(ロ) 袖丈のつめ方

(ハ) 袖幅のつめ方

三 縫ひ方

(イ) 袖口布のかけ方

(ロ) 袖口の合せ方

(ハ) 袖口の四留及び袖下の縫ひ方

(ニ) 振の縫ひ方

第一〇 本裁女物袷衣身頃衿の標附 (二時間)

要旨 標附方を實習せしめてその技に慣れしむ、特に鈎衿の標附方を教授し理解せしむ

準備 教具 標附方輪廓圖

兒童材料 女物袷衣實物材料

要項 一 表身頃の脊縫及び前後の標附

二 裏身頃の標附方

(イ) 通し裏の時

(ロ) 裾廻しつきの時

三 表裏の衿の標附

(イ) 棒衿の場合

(ロ) 鈎衿の場合

四 表裏衿の標附

注意 一 標附方は單衣物の時と大同小異であるから復習しつつ、新な所即ち胴接の標附方、鈎衿の標附方等を詳しく教へる

二 胴接をして後に標附をさせてもよい。又時間の都合で標附を終りまで續けてもよい

第一一 本裁女物袷衣身頃縫ひ方及び裾合せ中綴ぢ (九時間)

要旨 既習一つ身袷衣の仕立方を應用して本裁女物を縫はしめその技能の熟練をはかる

準備 教具 本裁女物袷衣實物標本 棲上の標本

兒童材料 本裁女物袷衣實物材料

要項 一 表身頃脇縫、衿附

二 裏身頃 胴接脊縫脇縫衿附

三 丈くらべ

四 裾合せ

(イ) 棲の縫ひ方

(ロ) 着せ及かくし襷

(ハ) 裾のかりとぢ

五 脊脇中とぢ

第一二 本裁女物袷衣袖附衿中とぢ及び衿下縫ひ (五時間)

要旨 袷衣の縫ひ方を實地に練習せしめてその技に熟達せしむ

準備 袖附四つ留部分標本

兒童材料 本裁女物實物材料

要項 一 身八口四つ留及び縫ひ方

二 袖 附

(イ) 表袖待針

(ロ) 四つ留

(ハ) 扇 附

(ニ) 裏袖扇附

三 衿中綴

四 衿下縫ひ方

高等第一學年第二學期

七 六

第一三 本裁女物衿衣衿附、掛衿、裾綴、及び仕上 (四時間)

要旨 特に衿の四つ附けの方法衿先のまとめ方等を教授し實地に縫はしめて正確に理解せしむ

準備 教具 衿附の部分標本 裾綴の圖

兒童材料 女物實物材料

要項 一 衿の下綴ち

二 表衿附の待針

三 裏衿のつけ方

四 衿先のまとめ方、三つ衿心

五 廣衿のくけ方

六 掛衿

七 裾綴、裏に出る針數が増す理

八 仕上げ

七

第一四 本裁男物衿衣の觀察及び裁ち方 (二時間)

要旨 通し裏にしても裾廻しつきにしても既習女物と全く同様であるから練習を専らとし知識

技能を確實ならしむ

準備 教具 男物衿衣實物標本、裁ち方輪廓圖

兒童材料 男物衿衣實物材料

要項 一 表布と裏布との裁ち方に關する知識の整理

二 裁ち方圖の構成と裁切寸法の記入、表裏とも

三 積り方計算

四 各自の寸法により裁ち方實習

注意 一 本裁の裁ち方積り方は幾回となく教授した事であるから最初より兒童の練習帳にて練習せしめ個人訂正をなし後一般に訂正をなすのもよい

第一五 本裁男物衿衣袖の縫ひ方 (五時間)

要旨 特に人形の縫ひ方につきて理解せしむ

準備 教具 袖口のかけ方標本、人形の部分縫

兒童材料 男物衿衣袖實物材料

要項 一 標附方

(イ) 表袖標附方

高等第一學年第二學期

八 七

(ロ) 袖口布のかけ方

(ハ) 裏袖の標附方 寸法のとめ方

二 縫ひ方

(イ) 袖口の合せ方

(ロ) 袖口の四つ留及び袖下の縫ひ方

(ハ) 人形の縫ひ方綴ぢ方

(ニ) 返し方

第八 第一六一 本裁男物衿衣身頃衿の標附 (二時間)

要旨 既習のものゝ総合であるから、なるべく児童をして實習せしめその知識技能を確實ならしむ

準備 教具 本裁男物衿衣實物標本 標附方輪廓圖

兒童材料 本裁男物衿衣實物材料

要項 一 表身頃の標附方

(イ) 脊縫

(ロ) 後の標附

(ハ) 揚の標附 裾の縫代を三分とすること

(ニ) 前身頃の標附

二 裏身頃の標附

(イ) 脊縫

(ロ) 丈の標として肩揚をきめる

(ハ) 後の標附

(ニ) 前の標附

三 衿及衿の標附、女物衿衣と全く同様

注意 一 適宜に教材を區切りて説明と實習との進度を同一にす

二 裾まはしつきの標附方をも附加する方がよい

第一七一 本裁男物衿衣の縫ひ方及び仕上げ (十八時間)

要旨 本教材に於ては特に袖附の留め方、衿の四つ附等につきて新らしく教授し之を實習せしめてその知識技能を確實ならしむ

準備 教具 袖附留め方標本 衿先のとめ方

兒童材料 本裁男物實物材料

高等第一學年第二學期

要項 一 表身頃

- (イ) 揚
- (ロ) 脇縫
- 二 裏身頃
- (イ) 胴接ぎ又は肩揚
- (ロ) 脇縫
- 三 袷合せ
- 四 脊及び脇中綴ぢ
- 五 袖附
- (イ) 留め方
- (ロ) 表袖附
- (ハ) 裏袖附
- 六 身頃袷附の下綴
- 七 衿のみの裾合せ、棲あげ
- 八 衿四つ附け

第一八 四つ身綿入の観察と裁ち方 (一時間)

- 九 衿下縫
 - 一〇 衿附假綴
 - 一一 衿附、待針縫ひ方全く女物に同じ
 - 一二 衿心入、衿先のまどめ方縫け方
 - 一三 掛衿のかけ方
 - 一四 裾の横綴ぢ
 - 一五 仕上げ
- 注意 一 女物袷衣との差異の點をよく理解せしめ要點を會得したものは各自に自習させる
- 要旨 本教材によつて綿入の仕立方の一般を會得せしめ四つ身の裁ち方を復習しその知識を確實ならしむ
- 準備 教具 四つ身綿入實物標本
- 兒童材料 四つ身綿入實物材料
- 要項 一 綿入と袷衣と異なるところ
- 二 裁ち方圖の構成、表裏共

三 各自持參の材料にて積り方計算

四 裁ち方實習

注意 一 四つ身の裁ち方は一學期に於て學習し、裏との關係は本裁袷衣のところをよく理解してゐる筈であるから、各自に研究させ布を折らせて後點檢してやる位に止む

第一九 四つ身綿入袖の縫ひ方 (四時間)

要旨 綿入の袖の縫ひ方特に袖口の縫ひ方及び綿の含め方を會得せしめ之を實習せしめその技になれしむ

準備 綿入の袖口部分縫(筒袖及び元祿袖)

兒童材料 四つ身綿入袖實物材料

要項 一 標附方

(イ) 表袖 單衣の時に同じ

(ロ) 裏袖、袖口の縫代、袖口布のかけ方、袖丈幅のつめ方

二 縫ひ方

(イ) 表袖

(ロ) 裏袖、袖口布のかけ方袖下縫含綿のしかた

二

第二〇 四つ身綿入身頃衿の標附方 (二時間)

注意 一 袖口綿の含め方は最も困難とするところであるから個人的に指導しなければならぬ

要旨 綿入物の表裏の寸法をつめ方につき會得せしめ標附方を實習せしめてその技になれしむ

準備 教具 四つ身標附方輪廓圖

兒童材料 四つ身綿入實物材料

要項 一 表身頃の標附

(イ) 脊縫

(ロ) 後身標附

(ハ) 前身及び衿の標附

(ニ) 裏身頃の標附

(イ) 脊縫、通し裏の時、(裾廻しつきの時は胴裏裾廻し各別々に)

(ロ) 胴接の標附、裾廻しつきの時

(ハ) 後の標附

(ニ) 前及び衿の標附

三 衿の標附

高等第一學年第二學期

(イ) 裏衿つけ
(ロ) 衿の標つけ

注意 一 若し衿肩明の寸法が表裏異つてゐる時は衿幅を揃へるべく衿の空縫のところを加減するやうに教へねばならぬ

二 標附は既習の知識技能を綜合して各自隨意に工夫しつゝさせる方がよい

第二一 四つ身綿入身頃縫ひ方及び裾合せ (十時間)

要旨 裏身頃の縫ひ方特に振身八つ口等の含め綿の仕方につきて新らしく教授し實地に練習せしめてその知識技能を確む

準備 教具 綿入をなすところまで縫ひたる標本

兒童材料 四つ身綿入實物材料

要項 一 表身頃縫ひ方

二 脇縫ひ

三 衿の空縫ひ

四 袖附

五 裾合せ

十二月
一一

(ホ) 各所の躰

二 裏身頃の縫ひ方

A 裾廻つきの時

(イ) 胸裏の脊、脇、衿空縫

(ロ) 裾廻しの脊、脇、衿空縫

(ハ) 胸按ぎ

(ニ) 袖附

(ホ) 身八口及び振の綿含め(通し裏の時も同様)

(ヘ) 各所の躰

B 通し裏の時

(イ) 肩揚

(ロ) 脇縫

(ハ) 衿空縫

(ニ) 袖附

三 裾合せ、棲上げ

一三

第二二 四つ身綿入々々方周囲の假綴、くけ方縦横綴及び仕上げ (八時間)

要旨 綿入の仕立方を會得せしむると同時に綿の取扱ひ方に充分なれしめんとす

準備 教具 綿入をするまでに縫ひ上げたる標本、綿入方を示せる圖、裾綿の作り方を示せる

實物標本

兒童材料 四つ身實物材料、青梅綿、真綿

要項 一 真綿の伸ばし方

二 真綿及び木綿綿の取扱方

三 裾綿の作り方

四 後身頃の綿の入れ方

五 前身頃の綿の入れ方

六 かへし方 引き合せ方

七 袖口、振、身八口、衿下、裾等のかりとち

八 袖口、振身八口衿下等の四つ留及くけ方

九 衿のとち方及びくけ方 掛衿

一〇 脊、脇、衿の縦綴ち

一一 裾の横綴

一二 仕上げ

注意 一 すべて綿入は絞けるところが多く餘程手際を要するものであるから細かに注意を與へねばならぬ

二 綿入方はすべて二人又は三人掛にてなさしめ一人にして二三度宛手にかけるやうにすると割合に練習が出来る

三 古綿の入れ方等についても材料があれば説明して實習させる必要がある

第三學期

教授豫定時數 七十二時間

月と週

教 授 事 項 (時間)

一月

第一 本裁女物綿入裁ち方練習 (二時間)

要旨 本裁女物の裁ち方各種の場合を総合的に練習せしめ實物あるものは之を裁たしめてその知識技能を確實にす

準備 教具 本裁女物綿入實物

兒童材料 本裁女物綿入實物材料

要項 一 本裁女物綿入實物標本の觀察

二 裁ち方圖の構成、積り方練習

三 各自の寸法により積り方計算

四 裁ち方實習

注意 一 通し裏の場合も裾廻つきの場合も練習しなければならぬ

第二 本裁女物綿入袖縫ひ方 (四時間)

要旨 既習四つ身綿入の袖の縫ひ方を本教材によつて復習せしめその知識技能を確實ならしむ

準備 教具 袖口綿の入れ方部分標本

兒童材料 女物綿入袖實物

要項 一 標附方

(イ) 表袖 單衣物に同じ

(ロ) 裏袖 袖口布つけ標附 袖口の縫代 丈幅のつめ方

二 縫ひ方

(イ) 表袖 單衣物に同じ、袖口に襷

(ロ) 裏袖 袖口布かけ袖下縫含め綿のしかた

注意 一 袖口の含め綿は 振身八口等の綿含めと同時にしてもよい

二 裏の袖巾のたりない時には袖ぐるまを入れるか又は袖口布のかけ出しをしなければならぬ事を教ふ

第三 本裁女物綿入身頃衿の標附方 (二時間)

要旨 既習本裁女物衿衣と全然同様なるをもつて裏布の寸法をつめ方を會得せしめて直ちに實習せしめその技能になれしむ

準備 教具 標附輪廓圖

兒童材料 本裁女物綿入實物材料

要項 一 表身頃の標附

(イ) 脊縫

(ロ) 後身の標附

(ハ) 前身の標附

二 裏身頃の標附

(イ) 脊縫、胸裏、裾廻各別々に

(ロ) 胸接の標

(ハ) 後身の標

(ニ) 前身の標

三 衿の標附 表裏四枚

四 衿の標附 表裏二枚

第四 本裁女物綿入表及び裏の縫ひ方 (十時間)

要旨 既習本裁女物單衣と全然同様なる技術なるをもつて之を實習せしめその技能を練る

準備 教具 綿を入れるまでに縫ひ合せたる標本

兒童材料 本裁女物綿入實物材料

要項 一 表の縫ひ方

(イ) 脇縫

(ロ) 衿附

(ハ) 袖附

(ニ) 振、身八口、衿下その他に鑲

(ホ) 裏の縫ひ方

(イ) 胸裏の脇縫

(ロ) 裾廻しの脇縫

(ハ) 後身頃及び前身の胸接ぎ

(ニ) 衿附

(ホ) 衿附但し裏衿なきものはつけぬ

(ハ) 袖附 附八口の合

- (ト) 振、身八口に含み綿
- 注意 一 全然單物の縫ひ方と同様であるから要點の説明のみに止め直に實習せしむ
- 二 胴裏及び裾廻しを各別々に脊脇を縫ひ後に胴接をするのは、裾廻を上下又は取りかへるの
に便利であるからである

第五 本裁女物綿入裾合せ及び綿の入れ方假綴の仕方 (五時間)

要旨 綿の入れ方を實習せしめてその技になれしむ

準備 教具 綿入方を示せる掛圖

兒童材料 本裁女物綿入實物材料、青梅綿、真綿

要項 一 丈くらべ

二 裾合せ

(イ) 棧の縫ひ方

(ロ) きせの注意

三 疊み方

四 綿の入れ方

(イ) 後

(ウ) 前

五 かへし方 引き合せ方

六 綴ぢ方 裾、袖口、振、身八口、衿下衿附等

注意 一 一枚の材料は兒童相互に手傳はしむ

第六 本裁女物綿入周圍のくけ方 縦綴及横綴仕上 (七時間)

要旨 綿入の縫ひ方を練習せしめてその技になれしむ

準備 教具 綿入袖口の四つ留及び衿け方を示せる標本 棧上の標本

兒童材料 女物綿入實物材料

要項 一 袖口、振、身八口等の四留及くけ方

二 棧先のまともめ方及衿下ぐけ

三 衿ぐけ 衿先の四つ留め、衿先のまともめ方

四 かけ衿

五 脊、脇、衿の縦綴ぢ

六 裾の横綴ぢ

七 仕上げ

第七 本裁男物綿入の裁ち方 (二時間)

要旨 本裁のあらゆる場合の裁ち方の總練習を目的とす

準備 教具 並幅大幅等による、棒衿裁 鈎衿裁その他種々の裁ち方圖

兒童材料 本裁男物綿入實物材料

要項 一 本裁各種の裁ち方圖の構成

二 各種の裁ち方に於ける積り方練習

三 各自持參の材料にて積り方裁ち方をなさしむ

注意 一 大體の裁ち切り寸法は豫め暗記させておく必要がある

二 兒童の經驗をもととして各種の場合をあげしむ

第八 本裁男物綿入の袖縫ひ方 (三時間)

要旨 綿入の袖を縫はしめて本裁男物の袖の縫ひ方の復習をなすをもつて主な目的とする

準備 教具 單衣男物袖の縫ひ方標本 袖口含め綿の標本

兒童材料 男物綿入袖實物

要項 一 標附方

(イ) 表袖

(ロ) 裏袖 袖口布の標附、丈及幅のつめ方

二 縫ひ方

(イ) 表袖 單衣に同じ

(ロ) 裏袖 袖口布のかけ方、袖口下の縫ひ方 含め綿の仕方

注意 既習の事項のみであるから要領の説明に止め直ちに實習せしむ

第九 本裁男物綿入身頃衿衿の標附 (二時間)

要旨 既習本裁男物衿衣の標附方と全然同様であるから復習かたぐい綿入の仕立方につきての

丈幅の關係を知らしむ

準備 教具 標附方輪廓圖

兒童材料 男物綿入實物材料

要項 一 表身頃の標附

(イ) 脊縫

(ロ) 後身頃

(ハ) 揚の標

(ニ) 前身頃

二 裏身頃の標附

(イ) 脊縫

(ロ) 揚の標

(ハ) 後身頃

(ニ) 前身頃

三 衿の標附 表裏四枚

四 衿の標附 表裏二枚

注意 一 兒童の記憶の程度及び時間の都合によつては直ち袷衣の時の筆記によつて實習せしめてもよい

二 裾廻しつきの場合には女物綿入と同様に取扱はさせる

第一〇 本裁男物綿入表裏の縫ひ方 (十時間)

要旨 男物の内揚の仕方の復習をなし併せて裏の揚の仕方その他の縫ひ方を練習せしめてその技能になれしむ

準備 教具 男物内揚の標本

兒童材料 本裁男物綿入實物材料

要項 一 表身頃

(イ) 内揚

(ロ) 脇縫

(ハ) 衿附

(ニ) 袖附

(ホ) 各所の袷

(ヘ) 各所の袷

二 裏身頃

(イ) 肩の揚

(ロ) その他表の縫ひ方に同じ

第一一 本裁男物綿入裾合せ及び綿入 (四時間)

要旨 男物の綿入方を理解せしめ實地に練習せしめて綿の取扱になれしむ

準備 教具 綿入方を示せる圖

兒童材料 男物綿入實物材料 青梅綿 真綿等

要項 一 裾合せ

(イ) 裾の上げ方

(ロ) 折ぎせの注意

二 綿の入れ方

(イ) 後

(ロ) 前特に人形のところ注意

三 かへし方 引き合せ方

四 周囲のとり方、裾、袖口、衿下等

注意 一 綿入は兒童相互に手傳はしむ

第二二 本裁男物綿入衿け方及び縦綴横綴仕上 (六時間)

要旨 既習綿入の仕立方を本教材によつて確實に會得せしめんとす

準備 教具 男物衿先の標本、綿入袖口及び裾の標本

兒童材料 男物綿入實物材料

要項 一 袖口の四つ留及びくけ方

二 裾先及び衿下のくけ方

三 衿先の四つ留及び衿先の縫ひ方

四 衿のとり方

(イ) 裏衿のある時

(ロ) 裏衿のない時

五 衿くけ 掛衿

六 縦綴、脊、脇、衿

七 裾の横綴ち

八 仕上げ

注意 振なく身八口なく女物よりも却つて容易なる材料であるから早くきれいに仕上げしめねばならぬ

第二三 女袴の觀察及び裁ち方 (二時間)

要旨 袴の各部の名稱及びその仕立上げ寸法を知らしめ各種女袴の裁ち方を教授し、袴に對する大體の知識を會得せしむ

準備 各種袴地(男女)、男女袴の實物標本、仕立上寸法表

兒童材料 女袴一着分材料

要項 一 各部の名稱

二 各種袴の材料

三 仕立上寸法及仕立上寸法割出し方

四 女袴裁ち方圖構成

五 各種裁ち方の積り方

六 裁ち切り寸法の標準割出し法

注意 一 袴の裁縫は困難なものとせられてゐるがその根本を理解すれば容易なものであるから裁ち切り及び仕立上の寸法の割り出し方を記憶せしめ、各種の裁ち方を試みさせる時は案外たやすく出来るものである

二 男子用の袴についても相當の知識を得させなくてはならぬ、時間の都合によつては腰板のつけ方位を教授してもよい

第一四 女袴の縫ひ方 (十三時間)

要旨 袴の仕立方を會得せしめ之を實地に縫はしめてその技能になれしむ

準備 教具 女袴實物標本 袴襷取部分標本 笹襷及び後紐附の標本

兒童材料 女袴實物材料、板目紙

要項 一 標附 前後各布の縫合せ及び相引の標附

二 前後布片の縫合せ

三 前後各布の裾ぐけ

四 襷取り、割り出し方

五 寄 襷

六 相引合せ方、裾のくけのこり處理

七 前後の笹ひだ

八 紐くけ及び後腰板の作り方

九 前ひもつけ

一〇 後ひもつけ

一一 仕上げ

注意 一 裾布をつける時は裾端を合せて縫ひ裏の方に折着せしかくし襷をなし表を一分程見返して襷をかけ裾布の奥を細かく紵ける

高等科第一學年

第一學期 教授豫定時數 九十六時間

月と週

教 授 事 項 (時 間)

四月

第一 腹合帯 (十時間)

要旨 前學年第一學期にて學習したる腹合せ帯の復習をなし且上等材料の仕立方を會得せしむ

準備 教具 各種帶地標本 腹合せ帶實物標本

兒童材料 女腹合せ帶或は女丸帶實物材料

要項 一 帶の種類 地質、丈幅、女腹合せ帯の仕立方等につき舊觀念の整理

二 布の整理法 既習事項の外に上等帶側の取扱方説明

(イ) 耳のつれを直す法

(ロ) 帶側に裏打をすること

三 假綴標附及び縫ひ方

四 心拵と心の入れ方

(イ) 一枚心の場合

(ロ) 二枚心の場合

五 返し方、中央くけ方、躰のしかた

注意 一 既習事項の復習であるけれども帶の仕立は仲々手際と手心とを要するものであるから細心の注意をもつて實習せしめねばならん

第二 本裁女物單衣早縫 (八時間)

要旨 時間的に作業せしめて各自の力量を遺憾なく發揮せしめ自信の念を強くし將來益々實用的に時間的に作業せしめんとす

準備 兒童材料 本裁女物單衣實物材料

要項 一 如何なる順序にすれば尤も時間を經濟に使用得るか

二 要所々に尤も注意をすること

注意 一 之は採點に尤も苦心するもので、其の成績と時間とによつて採點するのは勿論材料の難易兒童の四圍の狀況等によりて斟酌しなければならぬ

第三 羽織の種類及び各部の名稱 (二時間)

要旨 長着と羽織との區別を明瞭にし、各部の名稱及び種類、之に用ふる地質並に紋所の位置

等を知らしむる

準備 教具 男女羽織實物、袖無羽織等の標本

要項 一 羽織の種類につきて

二 名稱につきて

三 本裁男女羽織の仕立方差異

四 羽織の表及び裏の用布

第四 一つ身袖無羽織の裁ち方及び縫ひ方 (十時間)

要旨 之によつて羽織の縫ひ方の初歩を理解せしめ、兼て綿入の袖無類の縫ひ方をも教授せんとす

準備 教具 一つ身袖無羽織實物標本、裁ち方輪廓圖、標附方輪廓圖、綿の入れ方を描ける掛圖、火熨斗、蒲團等の用具

兒童材料 メリンス又は木綿並幅 二米突十五センチ、裏地並幅 一米突十五センチ

要項 一 一つ身袖無羽織の觀察

外見上長着と異るところ

(イ) 各布片の幅及び枚數

二 一つ身袖無羽織の裁ち方

裁ち切り寸法

裁ち方圖の構成 表裏共

積り方

裁ち方實習

三 一つ身袖無羽織の標附方

普通出來上り寸法

丈の計り方と胴接の標附方

後身頃、前身頃、裾及び衿の標附方

縫ひ標

四 一つ身袖無羽織の縫ひ方

後裾の入れ方

前裾の入れ方

襷上の含み綿と脇明の縫ひ方

襟のかけ方

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)

- 五 一つ身袖無羽織綿の入れ方
 - (イ) 疊み方
 - (ロ) 後身頃の綿の入れ方
 - (ハ) 前身頃の綿の入れ方
 - (ニ) かへし方
 - (ホ) 周囲のとり方
- 六 一つ身袖無羽織衿附
 - (イ) 紐の作り方及びつけ方
 - (ロ) 衿の折り方
 - (ハ) 衿の待ち針及び縫ひ方
 - (ニ) 衿先の縫ひ方
 - (ホ) 衿の心綿の入れ方及び紵け方
 - (ヘ) 襷及び衿綴ち
- 七 一つ身袖無羽織仕上げ
 - (イ) 火熨斗

肩揚

重要事項の筆記

- 注意 (ハ)(ロ)
 - 一 裁ち方の際に繰越しの事を附加してもよい
 - 二 綿の取扱については既習事項であるからその方法だけを教授し其他は各自自由に処理させたい
 - 三 衿附の際に衿をゆるめる理由及びゆるめる時の釣合の見方は實物で示範して各自に做はせる
 - 四 衿の折方につき長着と異るところを充分會得せしむ

第五 本裁女物綿入羽織の裁ち方と積り方 (三時間)

要旨 既習一つ身袖無羽織によつて得たる羽織裁ち方の知識を基礎として、普通の羽織の裁ち方を會得せしめんとす

準備 教具 本裁女物綿入羽織實物標本、裁方輪廓圖

兒童材料 本裁女物綿入羽織實物材料或は新聞紙二分の六のもの十一米突

要項 一 普通出來上り寸法

二 實物によりて羽織各布片の枚数を觀察せしめ輪廓圖に袖、衿身頃と順次割合よく記入し之

等が布の内に如何に配置され居るかを理解せしむ

三 衿丈裁切寸法の出し方

四 身頃の前後に差をつけること

五 袖口布及び乳の布をとること

六 衿肩明の寸法及び方法

七 積り方實習

八 裏布の裁ち方 裏布總尺の出し方

九 羽織實物の裁方

注意 一 裁つ前には必ず衿丈を精査せしむること

二 普通の羽織は表は前後の差をつけるけれども後日着物に仕立直すといふものであれば前後を同じにするか又は下り丈の差をつけて裁つておく事と衿も恰度衿となるやうに長く裁つておく事を附加しておく

第六 本裁女物綿入羽織の袖の縫ひ方 (五時間)

要旨 綿入の袖特に振を前以つて縫ひおく仕方を理解せしむ

準備 兒童材料 袖實物材料及綿少々

五

要項 一 標附方

(イ) 袖口布のかけ方

(ロ) 標附方 寸法のとめ方

二 縫ひ方

(イ) 袖口下の縫ひ方

(ロ) 振の縫ひ方及び綿の含め方

第七 本裁女物綿入羽織身頃及襠の標附方 (四時間)

要旨 主として下りの標附方及び襠の標附方を會得せしめんとす

準備 教具 本裁女物綿入羽織實物材料、標附輪廓圖

兒童材料 身頃表裏及襠

要項 一 表裏共存縫をなさしむ

二 胴接の標と後身頃の標附

三 下りの標と前身頃の標附

四 襠の標附

注意 一 後幅を広くしたために前幅が法外に廣くなる事がある。此時には衿附て縫入れずに

脇のところを縫入れるやうにする。従つて前の肩附が後より多くなり前後不揃のものが出来る。しかし却つて格好がよい。縞や柄があまりに目立つ時はこんなにしてはいけない

第八 本裁女物綿入羽織の身頃縫ひ方及び袖附 (八時間)

要旨 下りの縫ひ方襠のつけ方、身八口の縫ひ方等を理解せしめ實地に練習せしめてその技を會得せしむ

準備 教具 前下りの縫ひ方標本、袖附四つ留標本

兒童材料 綿入羽織實物材料

要項 一 下りの縫ひ方

二 襠 附 前後、

三 身八口縫ひ方及び含み綿

四 袖 附

五 袖口の含み綿

第九 本裁女物綿入羽織綿の入れ方及び周圍の綴ぢ方 (三時間)

要旨 綿の取扱方に慣れしめ振及び身八口を縫ひたる時の綿の入れ方を理解せしめ之を實習せしむ

準備 教具 綿入方圖

兒童材料 羽織實物材料 綿

要項 一 綿取扱上の注意 木綿綿及び真綿

二 身頃の疊み方

三 綿の入れ方 後前及び袖

四 かへし方引き合せ

五 周圍の綴ぢ方

六 袖口のくけ方

注意 一 このやうな仕方にするとう間もはぶけ且出來上りが大變きれいであるが綿入の際に綿が片寄る恐れがあるから返し方に餘程の注意と熟練とが要る

二 身頃の疊み方はよく記憶させておかねばならぬ

第一〇 本裁女物綿入羽織衿附及縦綴仕上 (五時間)

要旨 羽織の衿の折り方及びつけ方につき理解せしめ實地に練習せしめてその技になれしむ
準備 教具 羽織實物標本、衿の折り方及び乳の折り方を示せる圖、火熨斗蒲團等の用具
兒童材料 羽織實物材料、半紙一枚

八

要項 一 衿の折り方を半紙にて練習

二 實物衿の折り方

三 乳の折り方及つけ方

四 衿のつけ方

五 衿先のまとめ方及びくけ方 衿の假綴ぢ

六 脊と前襟との縫綴ぢ

七 仕上、羽織の疊み方

注意 一 半紙にて折りたる衿は點檢後保存せしむ

二 衿先の作り方も時間の餘裕があつたら部分縫をして標本として保存せしめておくも可

第一一 本裁男物衿衣羽織裁ち方練習 (二時間)

準備 教具 男女各羽織一枚

兒童材料 男物衿衣羽織實物材料

要項 一 實物標本を觀察せしめて女物羽織と比較對照しつゝ仕立方及び仕立上げ寸法を知らしむ

二 仕立上げ寸法より裁ち切り寸法を出し裁ち方圖の構成をなさしめ積り方練習をなさしむ

八

三 各自の寸法によりて實物にて裁ち方を實習せしむ

注意 一 裁ち切る前には必ず衿丈を精査せしむ

二 裁ち方は女物と同様なるをもつてなるべく兒童をして復習的に作業せしむ

第一二 本裁男物衿衣羽織袖の縫ひ方 (四時間)

要旨 長着類の袖とその形に於て異るところを發見せしめその標附方縫方を工夫して之を實地に練習せしむ

準備 教具 男物衿衣實物羽織

兒童材料 男物衿衣羽織實物材料

要項 一 標附方

(イ) 袖口布のつけ方

(ロ) 裏袖の丈及び幅のつめ方

二 縫ひ方

(イ) 袖口布のかけ方

(ロ) 袖口合せ

(ハ) 四つ留めと袖下縫ひ、裏の袖下は袖幅の標迄縫ふ

八

第二三 本裁男物袷衣羽織身頃及び襠の標附方 (二時間)

要旨 男物羽織の標附方特に襠の標附方を理解せしめ之を實地に練習せしめて充分會得せしめんとす

準備 男物袷衣羽織實物標本、標附方輪廓圖

兒童材料 男物袷衣羽織實物材料

要項 一 身丈及び胴接の標附

二 後身頃、前身頃の標附方

三 下りの標附方、袷衣と縮入との差を明にす

四 襠の標附方、女物と異るところをよく觀察せしめ標附方を實習せしむ

九

第一四 本裁男物袷衣羽織胴接ぎ脊縫及び後襠附 (五時間)

要旨 袷衣羽織一般の縫ひ方を授けて之を實習せしむ

準備 教具 男物袷衣羽織實物標本

兒童材料 男物袷衣羽織實物材料

要項 一 胴接ぎ

二 脊縫及び脊綴ち

九

第一五 本裁男物袷衣羽織前下り縫ひ方及衿折衿附 (五時間)

要旨 袷衣羽織の前下りの縫ひ方及衿附方を理解せしめ實地に練習せしめてその技能を會得せしむ

準備 教具 前下り及び衿の付け方標本、衿折方圖

兒童材料 男物袷衣羽織實物材料 衿附部分練習用布

要項 一 前下りの縫ひ方

二 前身頃衿附の部分の下綴ち

三 乳附、女物と異るところ注意

四 衿の折り方

五 衿の鐵砲づけ

(イ) 待針の打ち方

(ロ) 縫ひ方

- (ハ) 衿先のまとめ方、かへし方
- (ニ) 衿肩明のくけ方
- (ホ) 衿の髷かけ方

注意 一 衿附は普通四縫とするけれども児童の技術の發達の程度によつては綿入羽織と同様に差支はないと思ふ、綿入の時と同じ様に衿をつけるのであつたら最後に衿附をする

二 前下り及び衿附は稍複雑だから部分練習をしてから後實習させるがよい

第二六 本裁男物衿衣羽織前襟附及袖附仕上 (七時間)

要旨 前襟つけの方法を教へて衿衣羽織一般の縫ひ方を會得せしめ袖附を實習せしめて男物衿衣羽織特有の方法を理解せしむ

準備 教具 袖附八つ留の標本

児童材料 男物衿衣羽織實物材料

- 要項** 一 前襟附
- 二 袖 附
- (イ) 表袖の待針の打ち方
 - (ロ) 八つ留の方法

七月
二〇
二二

- (ハ) 縫ひ方
- (ニ) 裏袖のつけ方
- (ホ) 裏袖のくけ方

三 仕上げ 羽織の疊み方

四 裁縫帳の整理

第二七 隨意材料 (十五時間)

要旨 第一學年よりの既習教材につきて隨意に撰擇して復習をなさしめその技術を一層精巧ならしむるを以て目的とす

準備 児童材料 各自隨意に撰擇したる材料

- 要項** 一 各自に仕事の豫定表を作らしむ
- 二 作業中發見又は發明せし新方法の記録をなさしむ
- 三 出來上り成績につき自己批正を加へて提出せしむ
- 注意** 一 同じ材料を有するものはグループを作らしめ互に研究努力せしむ
- 二 時間に餘裕の生じたるものには適宜他の材料をも練習せしむ
- 三 提出したる成績は之を細密に検査し展覽せしむるも可

二二
二三

第二學期

教授豫定時數 百四時間

月と週

九月 二一 四三

教 授 事 項 (時間)

第一 ハウスシユウズ(ミシン教材) (十五時間)

長襦袢(和服教材) (十五時間)

要旨 みしん器械の使用法を教授し尤も簡單にして而も各種の練習を兼ねたるハウスシユウズを縫はしめ器械使用の技になれしむ

長襦袢は極めて簡單にして特別に教授する新らしき部分は極少なれども之によりて稍上等なる布帛類の取扱になれしめんがためこの教材を撰みたり

準備 教具 ハウスシユウズ型取圖、ハウスシユウズ實物標本、マツリ紬、千鳥縫、ホールかじり等の標本、ミシン器械

長襦袢實物標本

兒童教材 ネル又は毛織物、表布縦横三十センチ、裏布表と同寸法、綠布 幅二センチ半位

長さ七十センチ、七十番、二十番カタン糸、キャラコ幅五センチ 長さ三十センチ 畫洋紙

八つ切一枚

長襦袢實物材料

要項 (みしん教材)

- 一 みしんの構造
- 二 踏みしんの踏み方
- 三 直線曲線斜線等の縫ひ方練習(畫洋紙使用)
- 四 糸のつけ方
- 五 縫ひ方 地縫及び飾みしんの縫目注意
- 六 みしん基礎縫の練習

まつり紬

千鳥縫

松葉縫

半返し縫、ホシ縫

ホールのかぶり方(既習)

門留の方法

高等第二學年第二學期

- 七 ハウスシユウズの裁ち方
- 八 ハウスシユウズの縫ひ方
 - (イ) 表裏をはり合せること
 - (ロ) 外甲内甲、底等各別に地縫のみしん
 - (ハ) 両甲の後縁取り、返し縫、千鳥縫
 - (ニ) 両甲後のまつり縫
 - (ホ) 両甲の上側全部縁取り
 - (ヘ) 両甲上側のまつり縫
 - (ト) 両甲の底部の縁取り
 - (チ) 底の周囲縁取り
 - (リ) 底入れ、まつり縫
 - (ヌ) 門留及びホールかどり
 - (ル) 仕上と紐通し

(和服教材)

一 長襦袢の裁ち方

- (イ) 長着と異なる點
 - (ロ) 前下りをつけ置くこと
 - (ハ) 着丈を標準として裁つこと
 - (ニ) 裁つ前に於ける布帛の整理
- 二 袖の縫ひ方
- (イ) 標附方
 - 表布の幅を一ばいに使用し裏布を縫ひ入れること
 - 丈け幅袖附の寸法のつめ方
 - (ロ) 縫ひ方
 - 袖口合せ、袖下縫、振縫
- 三 身頃及衿の標附方
- (イ) 表裏の脊縫
 - (ロ) 表身頃の標附
 - (ハ) 裏身頃の標附
 - (ニ) 衿の標附

四 身頃縫ひ方と衿附

(イ) 脇縫、前下りの揚は表裏別々にしてもよいが前の身八口を揚の分だけ多くあけておきす
つかり出来上つてから揚をしてもよい

裾合せ

中綴、及び身八口縫

袖附

衿附

掛衿

(ト)(ヘ)(ホ)(ニ)(ハ)(ロ) 仕上げ、長襦袢の疊み方

注意 一 二教材を同時に取扱ふをもつて教師の注意如何によつて時間を空費することかある
から特に注意しなければならぬ

二 ホールのかゝり方は充分練習せざる必要ある

三 みしん最初の教材としてよく雑巾を縫はせるが實用にあまり適せないからなるべくなら外
の教材をとりたい

四 長襦袢については主として布の取扱方、縫ひ方等につきて注意を與ふ

五 縫ひ方の順序方法等は各自自由になさしむ

第二 エプロン二種(ミシン教材) (二十時間)

毛織物單衣又は上等單衣の仕立(和服教材) (二十時間)

要旨 エプロンの効用を知らしめ裁ち方の大體を會得せしめみしんの附屬器械をも用ひて稍複
雜なる縫ひ方を教授せんとす

上等和服單衣の仕立方に習熟せしむ

準備 教具 エプロン實物標本二三種、上等單衣の實物標本

兒童材料 キャラコ大幅、四尺位、レース、飾ボタン等毛織物單衣又は銘仙以上の上等單衣

要項 (みしん教材)

一 エプロンの効用及び使用上の注意

二 エプロンの裁ち方

三 エプロンの縫ひ方

(イ) 肩切の作り方

(ロ) 身頃の縫ひ方

脇、裾、縫ひ方及び胸布、脊布等のつけ方

肩切のつけ方

ポケットのつけ方

(ハ)(ニ)(ホ) アイロンのかけ方

(和服教材)

一 袖の縫ひ方

(イ) 標のつけ方、切替のしかた

(ロ) 縫ひ方、袖下の千鳥縫又は伏せ縫、袖口の燃りぐけ又は四つ折縫

二 身頃の縫ひ方

(イ) 標附方、切替のしかた

(ロ) 縫ひ方、脊縫、肩當、居敷當、脇縫、衿附、裾のくけ方及棲先の額縁、衿附、袖附等

注意 一 エブロンはその根本となるべき形のもの一つを教授し後の一つは各自の寸法によりて各自随意の形に作らしむ

二 みしんの針目に注意せしむ

三 エブロン洗濯法、アイロンのかけ方等はよく記憶せしめ家事實習の助となさしむ

四 単衣類の縫ひ方は豫め知つてゐるから一寸説明すればすぐに理解出来ることと思ふ。専ら材料の取扱を丁寧にするやう、針目等なるべく細く丁寧にするやうに指導する

第二 男物ズボン下又は女子ドロウアース(ミシン教材) (十四時間)

被布又は合羽(和服教材) (二十時間)

要旨 ズボン下又はドロウアースの裁ち方と縫ひ方とを教授し洋服の基礎の知識を授け、みしん使用に慣れしめんとす

被布又は合羽の裁ち方と縫ひ方を教授しその技能に熟練せしめんとす

準備 教具 ズボン下及びドロウアースの裁ち方圖、ズボン下及びドロウアース實物標本
被布及合羽の裁ち方圖、被布及び合羽の實物標本

兒童材料 ズボン下用布 白ネル一米九十仙 テップ一米 ドロウアース用布 白ネル又はキ
ヤラコ九十五仙 ボタン二ツ

要項 (みしん教材)(Aズボン下)

一 ズボン下各部の名稱

二 ズボン下の裁ち方

高等第二學年第二學期

三 ツボン下の縫ひ方

裾口の縫ひ方、紐のつけ方

股上の見返のつけ方

股上の持出のつけ方

見返しと持出との下部の縫ひ方

脊の縫ひ方

股下の縫ひ方

後のつまみ

腰廻附又はひもつけ

シツクのつけ方

穴あけと穴かゞり ボタン附け

門止め

四 ツボンのたゝみ方と火熨かけ方

(ル)(ヌ)(リ)(チ)(ト)(ヘ)(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ)

一 ドロウアースの必要

(みしん教材) (Bドロウアース)

二 ドロウアースの裁ち方、割出圖の作成

三 ドロウアース實物裁ち方

四 ドロウアース縫ひ方

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ)(ル)

脇の見返し及び持出しの附け方(前へ持出し)

左右の膝下の縫ひ方

裾飾のつけ方

股上及脊の縫ひ方(續けて)

帯のつけ方

釦穴のあけ方、穴かゞり及びボタン附

仕上、火熨斗のかけ方

(和服教材) (A被布)

一 被布各部の名稱

二 長着又は羽織類と異なる點 仕立上寸法

三 裁ち方圖の構成 積り方

四 裁ち方實習

五 縫ひ方

- (イ) 袖の標附方 裏袖の幅丈の寸法つめ方
- (ロ) 袖の縫ひ方
- (ハ) 身頃、襦、堅衿の標附け方
- (ニ) 脊縫、胴接のしかた
- (ホ) 前下り、襦入れ方
- (ヘ) 堅衿附方
- (ト) 身八口縫ひ方袖附及び含み綿
- (チ) 綿の入れ方
- (リ) 周囲の假綴ぢ
- (ヌ) 袖口及び堅衿下り堅衿紵
- (ル) 小衿の標附方と縫ひ方
- (ワ) 小衿のつけ方
- (カ) 縦綴ぢ
- (キ) 飾紐のつけ方

六 仕上

(和服教材) (B合羽)

- 一 被布及び長着と異るところ
- 二 合羽の用途
- 三 合羽の仕立上寸法
- 四 合羽の裁ち方(並幅及大幅)積り方
- 五 仕立方
 - (イ) 袖の標附方、單衣物類の袖口の附け方
 - (ロ) 袖の縫ひ方
 - (ハ) 身頃堅衿の標附方、脇縫の標附注意
 - (ニ) 肩當のつけ方
 - (ホ) 脇縫
 - (ヘ) 裾ぐけ
 - (ト) 堅衿つけ
 - (チ) 小衿つけ

(リ) 袖附及び身八口振のくけ方
(ヌ) 飾紐のつけ方 胸及び腰
(ル) 仕上

注意 一 要項は夫々について極めて簡単に書いたが何れか一つ宛實習させれば大要は分ると思ふ

- 二 合羽の材料がもし毛織物の際にはみしん縫にさせる方がよい
- 三 被布や合羽を縫ふ時には飾紐の結び方の稽古をさせる
- 四 何れも要項を簡単にしたのはこの位の児童になれば新しい所のみを教授すれば自分の考へでとにかく纏めるから單に名稱のみを擧げておいた

月と週

一月 二 一月
三二 四月 六五 七

第三學期

教授豫定時數 七十三時間

教 授 事 項、時 間

第一 女兒夏洋服(みしん教材) (三十時間)

男單衣羽織(和服教材) (二十時間)

要旨 女兒洋服の簡單なる裁ち方及びその仕立方を教授しその基礎を理解せしめ兼ねてみしんの使用になれしむるを目的とす

男物單衣羽織を實地に習はしめてその裁ち方仕立方を理解せしむると共に薄物の取扱になれしめんとす

準備 教具 女兒洋服の實物標本、裁ち方原型圖の取方、男物單衣羽織實物標本、裁ち方圖、標附方圖

兒童材料 ザラ紙三枚位、型紙に相當の洋服地肩當布(サラシ)スナップ又はホック五組位、男物羽織實物材料

要項 (みしん教材)

高等第二學年第三學期

- 一 女児洋服の寸法の取り方
- 二 女児洋服の普通寸法表
- 三 原型の取り方
- 四 型紙とのり方
- 五 布地の裁ち方
- 六 縫ひ方

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ)(ル)

袖の縫ひ方

見返し及び持ち出しの作り方

肩の合せ方 肩當のつけ方

脇の合せ方

裾のくけ方

袖のつけ方

スナップ又はホックボタンのつけ方

仕上、火熨斗のかけ方

ホールかじり

一 裕衣及び綿入羽織との差異につきて

二 仕立上寸法

三 裁ち方及び積り方

四 仕立方

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ)(ル)

袖の標附方

袖の縫ひ方 袖口のかけ方注意

脊縫

身頃、襟の標附方

衿の折り方

後襟附

前下り襟及び衿附

前襟つけ

裾 衿

袖 附

仕 上

- 注意 一 洋服の原型の取り方は児童の程度によつてもつと簡単にしてもよい。そしてワンピースにしてもよいと思ふ
- 二 洋服の袖附は尤も困難とするところであるからよく示範して充分理解したる後に實習せしめねばならぬ
- 三 洋服の仕上法之亦可なり手際を要することであつて亦之になれてゐることは實用上大變便利の多い事であるから充分練習させておく必要がある
- 四 單衣羽織の裁ち方は大體袷衣及び綿入と相違はないが襦の丈に注意して裁つことを特に教授しなればならぬ
- 五 薄物の取扱については特に注意を與へて練習せしめねばならぬ
- 六 單衣羽織の仕立方は上等衣類の仕立方に屬するをもつて既習長着單衣物の仕立方によつて各自に工夫せしむ
- 七 袴附は鐵砲附にせしむ

第二 帽子(みしん教材) (八時間)

隨意材料(和服教材) (十四時間)

要旨 各種帽子の型の取り方及び縫ひ方を授け製作になれしむると同時にみしんの使用になれしむ

既習材料の内又は既習のもの以外の和服につきて學習せしむ

準備 教具 各種帽子の出來上り標本 型の取り方圖

兒童材料 型紙に相當の帽子實物材料 ザラ紙一枚 その他和服の實物材料

要項 (みしん教材)

- 一 帽子の型の取り方
- 二 布地の裁ち方
- 三 罫の縫ひ方
- 四 天井の縫ひ方
- 五 天井と罫の合せ方
- 六 飾のつけ方

(和服材料)

- 一 既習のものなれば各自隨意になるべく時間的に美的に作り上げしむ
- 二 既習以外のものなる時はその要所の説明は全児童にきかしめ 材料なきもの等には手傳は

しじ

注意 一 帽子は型が出来れば縫ひ方は困難なものでないからなるべく兒童に工夫して縫はし
むる方がよい

二 和服はなるべく絹布類に近い材料を取らしじ

正 天竺の縫ひ方
二 天竺の縫ひ方
三 天竺の縫ひ方
四 天竺の縫ひ方
五 天竺の縫ひ方
六 天竺の縫ひ方
七 天竺の縫ひ方
八 天竺の縫ひ方
九 天竺の縫ひ方
十 天竺の縫ひ方
十一 天竺の縫ひ方
十二 天竺の縫ひ方
十三 天竺の縫ひ方
十四 天竺の縫ひ方
十五 天竺の縫ひ方
十六 天竺の縫ひ方
十七 天竺の縫ひ方
十八 天竺の縫ひ方
十九 天竺の縫ひ方
二十 天竺の縫ひ方
二十一 天竺の縫ひ方
二十二 天竺の縫ひ方
二十三 天竺の縫ひ方
二十四 天竺の縫ひ方
二十五 天竺の縫ひ方
二十六 天竺の縫ひ方
二十七 天竺の縫ひ方
二十八 天竺の縫ひ方
二十九 天竺の縫ひ方
三十 天竺の縫ひ方
三十一 天竺の縫ひ方
三十二 天竺の縫ひ方
三十三 天竺の縫ひ方
三十四 天竺の縫ひ方
三十五 天竺の縫ひ方
三十六 天竺の縫ひ方
三十七 天竺の縫ひ方
三十八 天竺の縫ひ方
三十九 天竺の縫ひ方
四十 天竺の縫ひ方
四十一 天竺の縫ひ方
四十二 天竺の縫ひ方
四十三 天竺の縫ひ方
四十四 天竺の縫ひ方
四十五 天竺の縫ひ方
四十六 天竺の縫ひ方
四十七 天竺の縫ひ方
四十八 天竺の縫ひ方
四十九 天竺の縫ひ方
五十 天竺の縫ひ方

大正十三年四月二十日印 刷
大正十三年五月二十五日發 行

【定價金一圓五十錢】

不 許
複 製

東京高等師範學校内
初等教育研究會

發行者 株式會社 岡本洋行出版部

培風館

右代表者 山本慶治

發行所

東京橋區
銀座二ノ十五

培風館

電話青山三二六八
振替東京三二六一七

2639
191

13.8. 2

終

